

# 会員の ひろば

北海道医報では、特定の個人・団体を誹謗、中傷する内容等を除いた幅広い多様性のあるご意見を掲載させていただいております。

## 梅の花見

江別医師会  
おおあさ高町クリニック

みやもと  
宮本 たまき  
環

古には花といえば梅であったと聞く。今は花見といえば桜だが、梅の花見も捨てがたい。何しろ香りまで楽しめる。北海道では桜も梅もほぼ一緒に咲くが、他の地域では梅は寒さが残る時期に咲く。北海道生まれの小生には、それが何とも言えない風情に思えて各地の梅の花見に出かけている。

太宰府天満宮には梅の季節に2、3度訪れてみたが、学業のご利益は自らの努力不足では得られるものではないと知らされた。宝塚市の中山寺の観音様と梅の花は、この娑婆世界にも救いがあるのではと思わせてくれた。吹田市の万博記念公園の梅林は太陽の塔が背景にそそり立ち、シュールでそこにしかない不思議な風景を織りなしていた。

小生の趣味の城めぐりでも、梅の季節を楽しめるところは多い。岡山の後樂園では、梅花と背景の黒々とした岡山城という昔から変わらぬ眺めを楽しめた。兵庫県の明石城では坤櫓を西側からちょうど見上げる位置に白梅があり、梅の香りが漂う中で三重の櫓と白梅の眺めを堪能できた。和歌山は梅の産地として有名なので、和歌山城にもさぞ立派な梅園があるものと訪れてみたが、意外や梅の木は多くない。ちゃんと下調べをしていかなかった小生が悪いのだが、勝手ながらこれからは是非多くの梅の木を植えていただきたいのだと願った。足利市の鏝阿寺(足利氏館跡)を訪れた時は1月の成人の日であったが思いもかけず紅白の梅が咲いており、その下を歩く晴れ着の新成人で華やかだった。水戸市の偕楽園は数ある大名庭園の中でも梅の名所として有名だ。梅まつりの期間中には梅の花見客向けに偕楽園臨時駅に特急が止まり、梅大使が着物姿で出迎えてくれる。梅は奇妙な形に曲がった古木がたくさんあるのが面白い。

梅の花見のいいところは品種が多いこともあり、桜よりも楽しめる期間が長いので旅が空振りに終わることが少ないことだ。なかなか暇を作れない方にもお勧めであろう。

## ビッグマック指数と聞いて

札幌市医師会  
新川皮膚科クリニック

つかもと  
塚本 あやと  
文人

今から30年程前に初めてビッグマック指数という言葉を知った。イギリス政治経済誌「エコノミスト」によって1986年に考案された世界各国の物価を測る指標の一つと言われる。ある時点における同じモノやサービスの価格は一つになるであろうという経済学の考え方である「一物一価の法則」を用いて、世界各国の総合的な貨幣価値や購買力を算出するというものだ。実際の計算方法は、{(各国のビッグマック1個の価格÷本国アメリカのビッグマック1個の価格) - 1} × 100 = ビッグマック指数 (BMI) (%) として算出される。私が初めて知った1992年当時の日本のビッグマック指数は30% (世界12位) であったが、直近の2022年10月では-55% (世界41位) と大幅に低下している。アジア圏でも中東やシンガポールは元より中国 (31位)、韓国 (32位)、タイ (33位)、ベトナム (40位) と日本より上位の国々が増加している。これにも驚きだが、1992年の日本のビッグマックの価格が税込み380円であったのに対し、2022年12月現在でも税込み410円と30年で30円しか値上がりしていないことの方がもっと驚きである。その間に消費税率が3%から10%へ上昇している為、税抜きでは2~3円しか価格差が無く、ほぼ30年間価格据え置きの状態である。

一概には語れないが、2022年は歴史的な円安進行も相まって、メディアの報道で見聞きする国際的な購買力の低下、長引くデフレーション、鈍い賃金上昇率等、長期経済低迷を反映する事案が露呈した年であったように感じられる。2023年も全く予測できないが、急激な円安ドル高が是正され日本経済がより良い方向に上手く回ってくればと願っている。

余談になるが、日本のビッグマックの価格は安価だが、カロリーは43か国中2位、食塩相当量は43か国中1位と上位を占めているようだ。久しく食べていなかったが更に足が遠のきそうである。ちなみに最近ではビッグマック指数と比較される指数として、トール・ラテ指数、KFC指数、iPhone指数、コカ・コーラマップ (コカ・コーラ指数) 等があるらしい。面白そうなので今度時間のある時にこちらも調べてみたい。